

めぐみ厚生センター恵友会 会報

第 268号

めぐみ厚生センター恵友会

法人本部 0952-25-2797

めぐみ園 0952-34-7722

富士学園 0952-63-0107

ウイズ富士 0952-51-0063

発行人 鳴原 貞雄

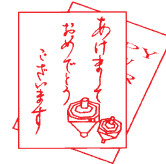
郵便振替 めぐみ厚生センター恵友会
事務局 〒840-2223 佐賀市東与賀町大字飯盛1584 (めぐみ園内) : tel 0952-34-7722

口座番号: 01770-6-12389



『2011年 恵友会は30周年』

恵友会 会長 鳴原貞雄



「てえへんだ」「てえへんだー！！今年には恵友会が出来て30年たつんだとヨ」
「それが何でえ どうしたってんだ」

これは落語の熊さんと八つあんの会話です。正月早々こんな会話でスタートしましたが、恵友会がスタートする前にめぐみ園は既に30年もたっていたのです。めぐみ園は昨年10月60年を迎えお祝いをしました。本当におめでとうございました。30年もたつと只、時をふるのではなく、風格、重みとそれなりに内容も伴っていかなければなりません。我が恵友会も現在会員はお陰様で1000名、予想外に沢山のの人に支えられています。会員の多いことは何かにつけ良い事だと思います。多くの人に関心を持って貰えることはやり甲斐も出てきます。多くの人々の知恵で種々考えれば良い考えも沢山出ると思います。又、幸いなことに会員の中には高齢者も沢山います。高齢者＝知恵袋みたいなものです。前宮崎県知事、東国原さんの言葉を借りるなら「宮崎県をどげんかせんといかんばい!」「恵友会をどげんかせんといかん!!」と思っています。宮崎県はあれなりに何とかなりました。さて、この恵友会は何とかなるだろうか? 考え方によっては今で充分だ、今は何とかなっているということだと言う人もいるかもしれない。それも一つの考えかもしれませんが。サポーター役は特に何も出来るものではない、そっと静かに見守ることが最高の行動だという人もいるでしょう。

100歩譲って、この考え方を受け入れたとしてどうだろう。一步あけて考えてみると、何か満ち足りない感じがしませんか? これで良いのかな? 何か一寸だけ足りない感がしませんか? こんな時はもう一度原点に帰って見て考える必要があるのではないだろうか。

東芝の何代か前の社長・石坂泰三さんは「企業は5年毎に波が来る。山の時は良いが底の時が必ずあり、この時に備えて万全の策を考え努力しなければならない」と言っていた事を貧しい記憶の中から思い出しました。企業は5年かもしれないが、我が恵友会には山や谷はないのだろうか。あるとしたら、それは1年か、10年か、30年か兎に角考えてみようではありませんか。それが備えになると私は信じます。

創立者の栗林ミサ先生が困った顔をして来られ、近所の親達は言うことを聞かない子供に、「めぐみ園に入れちゃうヨ」と言われるということを非常に悲しんでいました。こんなことの無いように何とか良策はないだろうかと言われて困っていたのです。現在、この原点にあった問題が問題として存在するとは思わないが、この問題を問題として終わりとせず考えたい。そこで、30年を機に恵友会をどうして行くのか皆さんで考え進めて行きたいと思えます。30年目を今後の1年目と位置づけて何を考えるか、まず皆さんに聞いてみたい、というより教えてもらいたい。即ち何か言って語ってほしい。意見をまとめて行動のきっかけになったらすばらしいと思いませんか?

30年を期して我々も考え「どげんかせんといかん」と思うからです。

2011年 元旦





◎会費納入ありがとうございます。

平成二十二年十二月二十七日現在
(敬称略)

廣井和子、関井みさを(二年分)
新三上弘、佐藤誠、山下俊一
池田譲二、弓山満子、柴田英則
柴田二三恵、桑原敏幸(二年分)
永島喜三郎
牛島康之



◎寄付ありがとうございます。

平成二十二年十二月二十七日現在
(敬称略)

堤宏隆
廣井和子
レインポーハウス
日本キリスト教会西宮中央教会
日本キリスト教会久留米教会



今年度(平成二十二年度)分の会費
納入がお済みでない方は事務局まで
納入をお願い致します。



恵友会三〇周年!

三〇周年記念コンサート

- ◇日時◇
二〇一一年一月二十九日(土)
- ◇場所◇
佐賀県立美術館ホール
- ◇内容◇

勝田友彰氏によるコンサート

勝田友彰氏のご紹介
佐賀県立佐賀北高出身のテノール歌手で日本
はもとより世界各地で活躍され絶賛されてい
ます。
昨年は、めぐみ園の六〇周年記念でもコン
サートを開催して頂きました。



写真中央が勝田氏、右：森永さん、左：島田さん

恵友会事務局

島田史子

恵友会を立ち上げて三〇年。
会員の皆様のお力で障害を持つ方々
への理解と支援を続けることができ
ています。そこで、これまでのご支
援に感謝しコンサートを開くことにな
りました。障害の有る無しに関わ
らず人としての心のふれあい、優し
さの原動力です。
勝田先生もご自身の活動を通してそ
のことを良くご存知で、今回もめぐ
み園の利用者の方や職員と共に準備
してまいります。一緒に苦勞して
準備すればそのことで心も一つにな
れますし、コンサートを心待ちにす
るワクワク感!につながら、来場い
ただいた方々の感動を呼ぶであ
う。



チャレンジド・リボン

このマークは障害者への理解の輪を広げるために県内の障害
団体と佐賀県が協働して企画デザインしたもので、歩く姿にも
似た形は、障害者への理解を一步進めたいという気持ちを表し
ています。

リボンの色・柄の由来

1 身体障害への理解(オレンジ)

生命力の象徴である太陽の光をイメージ。

2 知的、精神など脳の障害への理解(シルバー)

1993年米国で統合失調症の子どものために銀色のリボン
を手作りしたことがシルバーリボンの始まりです。

3 自閉症への理解(パズル柄)

英国自閉症協会の発足した自閉症啓発のシンボルマークです。

4 難病への理解

難病で闘う人に愛の手が届くようにとデザインされました。

販売もしています。詳細は事務局まで
お問い合わせ下さい。

編集後記

幻想的な雪景色
から始まった新年!
どっぶり寝正月した結果
見た目はまさに雪だるま!
何とかせんばいかん!
と叫びつつ身体をコタツで
暖める毎日。
鳴原会長の言葉(恵友会)
と共に我が身(体重)を何
とかする年になりそうです。



(編集局)